

短大特任教員教育研究業績書

平成30年5月3日

氏名	ふりがな	所属	職位	性別
中塚 健一	なかつか けんいち	保育学科 通信教育課程	教授・准教授・ <input checked="" type="checkbox"/> 講師・助教	<input checked="" type="checkbox"/> 男・女

担当科目名

保育者論

学歴

和暦(西暦)年 月	事項	学位
平成元(1989)年4月	埼玉大学 教育学部 小学校教員養成課程 入学	
平成5(1993)年3月	埼玉大学 教育学部 小学校教員養成課程 卒業	学士(教育学)
平成13(2001)年4月	埼玉大学大学院教育学研究科学校臨床心理専修修士課程 入学	
平成16(2004)年4月	埼玉大学大学院教育学研究科学校臨床心理専修修士課程 修了	修士(教育学)

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
埼玉県公立小学校教諭	平成5年4月～平成14年3月	
埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター 嘱託研究員	平成16年6月～平成17年3月	
太成学院大学 兼任講師	平成21年4月～現在に至る	「教育方法論Ⅰ・Ⅱ」、「教育方法論(初等)Ⅰ・Ⅱ」
白鳳女子短期大学(現・白鳳短期大学) 兼任講師	平成22年4月～平成27年3月	「道徳教育の研究」 「特別活動の研究」及び「特別活動の理論と実践」
近畿大学豊岡短期大学(現・豊岡短期大学) 非常勤講師	平成26年4月～平成28年3月	「教育原理」 「教職論」
学校法人三幸学園 大阪こども専門学校 専任講師	平成26年4月～現在に至る	「教育原理」 「教職論」
学校法人三幸学園 大阪医療秘書福祉専門学校 非常勤講師	平成26年4月～現在に至る	「教師論」
株式会社 東京アカデミー 非常勤講師	平成20年2月～現在に至る	小学校全科、学習指導要領、人物試験対策
小田原短期大学	平成28年4月～現在に至る	保育学科通信教育課程 講師

所属学会等

名称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)
日本教師教育学会	平成13年9月～現在に至る	大会参加・口頭発表
日本教育方法学会	平成16年9月～現在に至る	大会参加・口頭発表
日本保育者養成教育学会	平成29年3月～現在に至る	

社会活動等

名称	活動期間	活動内容
特記事項なし		

担当教科目に関する資格・免許等

名称	取得年月	取得機関
小学校教諭専修免許状	平成16年3月	埼玉県教育委員会
中学校教諭専修免許状(社会)	平成16年3月	埼玉県教育委員会
高等学校教諭専修免許状(地理歴史・公民)	平成16年3月	埼玉県教育委員会

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称 (著書)	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要

1. 小学校教員基礎ゼミナール～小学校の先生になるために～	共	平成 24 年 10 月	ふくろう出版	<p>小学校教員志望者や小学校教育に関心のある学生向けに書かれた「入門テキスト」である。小学校教員の歴史や実態、教員採用試験などについても集録。(担当部分概要) pp. 39～54 「第 4 講：子どもといっしょに遊ぶ先生に」担当。教師や児童にとっての遊びの意義や課題、実践例の紹介。ドッジボールをもとに遊びの意義について考察を行う。共著者：岩井邦夫、庄司裕志、田中卓也、浅野信彦、烏田直哉、雲津英子、黒田政広、中田尚美、中塚健一、平山竜美、松尾美香。</p>
2. 保育者・小学校教諭・特別支援学校教諭のための教職論	共	平成 25 年 10 月	北大路書房	<p>保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭を目指す学生を対象に、教職論の学習内容をまとめたテキスト。保育者・教師の役割や力量形成などの基本的知識から現場の実際まで解説する。</p> <p>(担当部分概要) pp.105-108「第 9 章 1 節：保育・教育現場の人間関係づくり」及び pp.135-136「コラム 4：ぜひおさえておきたい教育関係法令の URL」担当。保育・教育の専門家集団としての教師の人間関係の重要性、特に同僚性について解説する。またコラムでは、敬遠されがちな法令との関わりやその意義について解説している。共著者：古川治、西川正晃、雲津英子、中田尚美、京林由季子、走井洋一、岡田美紀、伊藤一統、松村齋、田中卓也、安藤きよみ、矢田貝真一、八木浩雄、向井通郎、安田訓明、中塚健一、赤澤真旗子、志濃原亜美、水落洋志、石原典子、今井康晴、川島民子、浅野信彦、松尾美香、戸江茂博、加藤孝士、鉄井史人、井関美季、大橋圭太、船橋秀彦</p>
3. 幼児教育における表現Ⅰ〈理論的研究編〉	共	平成 30 年 1 月	三恵社	<p>幼稚園教諭や保育士養成に携わる大学、短期大学教員を中心に、幼児教育に必要とされる「表現」について、理論的な研究を持ち寄り考察した論文集。</p> <p>(担当部分概要) pp.72-76「乳幼児期の教育と『哲学』の関係についての一考察 - 保育者志望学生への教育学講義を中心に -」担当。保育者や保護者らが、保育・教育の場面でジレンマに立たされることが多くある。その解決の手段として、幾ばくかの哲学的教養を携えておくことが重要であると述べる。共著者：崎浜聡、山西多加、永易直子、田名網宏子、佐藤奈美、久保玄理、水野恵理子、辻本恵、福田明子、小松原祥子、近藤正子、木村文子、中塚健一、木戸貴弘、勝部月子、萩原恵里</p>
4. 幼児教育における表現Ⅱ〈実践的研究編〉	共	平成 30 年 1 月	三恵社	<p>幼稚園教諭や保育士養成に携わる大学、短期大学教員を中心に、幼児教育に必要とされる「表現」について、実践的な研究を持ち寄り考察した論文集。</p> <p>(担当部分概要) pp.117-121「保育者にとっての『子どもの遊び』の重要性に関する一考察 - 保育者の観察眼を中心として -」担当。保育・教育において、保育者が子どもを観察する行為は重要である。ではなぜ、どのように観察すべきかについて検討している。共著者：崎浜聡、山西多加、佐藤奈美、久保玄理、田名網宏子、水野恵理子、辻本恵、福田明子、小松原祥子、萩原恵里、永易直子、近藤正子、木村文子、木戸貴弘、勝部月子、中塚健一</p>

<p>(学術論文)</p> <p>1. 小学校における「リーガル・リテラシー (法的教養)」教育の可能性—いじめ等問題行動に対する「道徳教育」強化への批判的考察</p>	単	平成 21 年 4 月	埼玉大学『教育臨床研究』vol.5 2009	いじめは差別感情に由来する人権問題であると考える。またいじめとして行われる行為は、一般社会では刑事罰の対象となりうるものが多い。いじめを予防するには、差別感情を抑制するための人権教育が必要であるが、人間の思想や感情の問題は、法整備では限界がある。本稿では、いじめ予防の観点から、人権教育や規範教育の前提となる法的教養を、教師や児童生徒が持つことの必要性を明らかにした。
2. 教師受難期における小学校教師の自律性に関する一考察	単	平成 22 年 3 月	太成学院大学紀要・第 12 卷 (通号 29 号) pp.199-208	いじめや学力低下教育問題の改善には、子どもに最も近い教師の果たす役割が大きい。しかし、教師の多忙問題は改善の兆しが見られない。教師の疲弊は、教育の質の低下を招き、学校教育に悪影響を及ぼす。本稿では、教師の自律性の回復が問題解決の手がかりになりうると考え、どのような改善が可能なか検討していく。
3. 小学校における児童の民主的思考の成長に関する一考察—学級活動や集団遊びを中心に—	単	平成 23 年 3 月	太成学院大学紀要・第 13 卷 (通号 30 号) pp.233-240	戦後、民主主義が日本の政治、社会体制の基礎となった。しかし、多数決を原則とする民主主義の手続きには、少数者や弱者を排除してしまう側面がある。子どもたちが、平和で民主的な国家・社会の形成者としての資質を身に付けるために、どのような実践が可能なか。本稿では、小学校の集団遊び等による、児童の民主的思考の成長と教師の役割について検討していく。
4. 障害者理解のための教育に関する考察—民主的社会における少数者への配慮を中心に	単	平成 25 年 3 月	太成学院大学紀要・第 15 卷 (通号 32 号) pp.191-199	本論文は、民主主義の課題である「マイノリティへの配慮」について検討した。児童のマイノリティに対する意識を探るために、「社会的弱者」とされる場合が多い「身体障害者」の文献などを中心に検討した。
5. いわゆる「いじめ自殺」といじめ問題の論点区分の試み—いじめ自殺対策といじめ対策の基礎づけ	単	平成 26 年 3 月	太成学院大学紀要・第 16 卷 (通号 33 号) pp.195-202	近年、断続的に発生している学校でのいじめを苦にした自殺事件の報道などにより、「いじめ」が大きな社会問題となっている。ただ、いじめが深刻な問題として認識される一方で、いじめをタブー視し、気軽に議論できない風潮もある。本稿は、児童・生徒の自殺事件によってクローズアップされることの多い「いじめ問題」の本質を、自殺と距離を保ちながら整理し、いじめの課題に取り組むための基礎づけとなることを目的とする。
6. 「哲学ブーム」と教職課程の「教育学」に関する一考察—教職課程の講義改善のために—	単	平成 27 年 3 月	太成学院大学紀要・第 17 卷 (通号 34 号) pp.215-222	米ハーバード大学の M・サンデル教授による哲学の講義が放映されたのを機に「哲学ブーム」が起きた。教職課程の講義でも教育哲学などが扱われ、思考を深める実践もされている。しかし、学生には哲学は難しいと受け止められ、敬遠されがちであった。本稿は、哲学を、社会生活で起こるジレンマと関連させながら、学生の思考を深めていく手法をとるサンデルの講義から、教育の直面する課題と哲学の関係を探り、教職課程の講義の改善につながるヒントを見出すことを試みる。
7. 教職課程学生への ICT 機器活用に対する意識についての一考察 : 履修生への質問紙調査より	単	平成 30 年 3 月	太成学院大学紀要・第 20 卷 (通号 37 号) pp.187-192	学校教育現場における ICT 機器の導入が顕著になった。パソコンだけでなく「電子黒板」の設置教室も、普通教室の 2 割を超えるという。一方、ICT 機器を十分活用して授業等を行える教員は必ずしも多くないという課題もある。また、効率性、利便性だけを ICT 機器に求めてしまえば、教育の本質を見失ってしまう。本稿は、これから教職を目指す学生の ICT 機器に関する意識を垣間見ること、今後の教員養成・教師教育に生かす研究につなげることを目的とする。

(その他)				
その他 (表彰等)				